

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4290700048		
法人名	社会福祉法人白寿会		
事業所名	グループホームかぶとむし		
所在地	平戸市田平町深月免405番地1		
自己評価作成日	平成26年6月10日	評価結果市町村受理日	平成26年8月13日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/42/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉総合評価機構
所在地	長崎県長崎市宝町5番5号HACビル内
訪問調査日	平成26年6月23日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

家庭的雰囲気の中で、ご利用者や職員が共に楽しく過ごすことができる空間づくりを心掛けている。また、地域との繋がりを大事にしている

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームは自然に囲まれ、四季の移り変わりを楽しめる場所に位置し、建物は地域に馴染んでいる。ホーム内はゆったりとした造りで開放感がある。職員は法人理念と施設理念を理解し、地域密着型事業所として支援に励んでいる。毎年度、事業計画及び事業報告を家族会にて行い意見を求めたり、又、運営推進会議では取組みをオープンにすることでメンバーから意見を得るなどサービス向上に繋げるよう工夫している。職員は介護職員としての意識が高く、利用者の生活習慣に近づけるよう、十分なアセスメントと介護計画作成に努めている。敷地内の畑で利用者と共に栽培したり、日常的に買い物やドライブに出掛けている。外出を伴う行事は家族へ声を掛け、一緒に楽しむ場面と設けたり、家族へ手紙を出す作業を手伝うなど家族との絆を大切に支援している。ホーム内は職員と利用者の笑い声で明るく楽しい雰囲気に包まれている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員研修で理念を取り上げ上司による説明を受け理解し朝のミーティング時、法人理念、施設理念を全員で唱和している	事業所内に法人理念と施設理念を掲示し、職員は毎朝唱和し、意識付けている。「ご利用者のお気持ちに寄り添い、慣れ親しんだ暮らしを続けていけるよう努めます」を実践するために、利用者の生活習慣を把握し、尊重する支援を実践している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に加入し、地区清掃活動、会議に参加できている	町内会に加入している。職員は町や地区の会議に参加し、地区の清掃活動や草払い、廃品回収に参加している。回覧板は利用者と共に回覧し、近隣小学校の運動会見学や福祉まつりに作品を出展し、地域の一員として交流している。又、高校生のホームヘルパー実習も受入れている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の農業高校よりヘルパー取得の為の実習生を受け入れており実践の場として貢献している		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回運営推進会議を開催し、現状報告、事故報告、質疑等を賜っている	2ヶ月に1度規程のメンバーで会議を実施している。会議では利用者の状況や行事、事故やヒヤリハット等詳細なデータを提示し報告を行っている。出席者から様々な意見が出ており、利用者の選挙投票権の質問に市担当者が回答し、家族同伴で投票するなど、サービス向上に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	平戸市介護保険課介護保険班の方がメンバーであるので上記の会議時に意見交換を行っている	介護認定調査時や利用に関して不明な点は担当課に直接尋ねている。介護保険制度の家族説明会では、報告内容や各種書面についてアドバイスももらっている。平戸市花いっぱい運動に申請し、年2回花の苗の提供があり、利用者職員はプランターに植え替えを行っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	日常的に身体拘束について上司やチームで話し合い、理解しケアに臨んでいる。事務所不在時は玄関自動を手動に切り替えている	身体拘束をしないケアを実践するために、管理者は資料を作成し、全職員へ配布すると共に職員会議で周知徹底している。内部研修でも議題に取り上げている。日中は施錠しておらず、職員は見守りに重点を置き、利用者は畑や庭など自由に活動できるように支援している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	ご家族による虐待や職員による言葉の虐待..そのようなことがないようにお互い注意合っている		

グループホームかぶとむし（てんとうむしユニット）

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	外部や施設内勉強会で学ぶ機会はあるが全職員がどの程度周知、把握できているのかは定かでなくまだそれについては学習不足である		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入退居時に管理者より説明し、また、家族会の機会に質問を受け、説明、同意を得ている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に意見箱を設けたり、また、常日頃よりご面会の家族とコミュニケーションを図り、常に交流を深めている	広報誌や事業報告を通じて、利用者の様子やホームの運営状況を定期的に報告したり、家族会を開催し意見交換の場を設けている。職員は電話や利用者への面会時などに家族と会話するよう心がけている。但し、相談及び外部窓口について書面に記載がない。	利用者、及び家族が理解しやすいように、各書面に事業所及び外部の相談窓口を具体的に表記することを期待したい。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ユニット会議、リーダー会議で職員との意見交換を密に図り、職務に反映している	日々の申し送り時や毎月の職員会議、各種委員会会議の中で、職員からの意見を汲み上げる場を設けている。又、管理者が席を外し意見が出しやすいような取組みも行っている。皮膚剥離防止の為、トイレ突起部分にクッション素材を設置したり、勤務シフトの希望を優先するなど職員の意見を反映している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人事考課制度再スタートなど、法人の規定に沿って行われている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	昨年度は外部研修へ参加させることが困難であり次期管理者候補者だけの参加のみであった		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	入居前、入居時に本人、家族と話し合い、まず関係づくりを図り、要望等を汲み取り、ケアプランへ反映させている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前、入居時に本人、家族と話し合い、まず関係づくりを図り、要望等を汲み取り、ケアプランへ反映させている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前、入居時に本人、家族と話し合い、まず関係づくりを図り、要望等を汲み取り、ケアプランへ反映させている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	施設見学にみえた段階でご相談に応じ適切なサービス受けられるよう法人内他事業所の入居等も含め助言している		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	洗濯物たたみ、エプロン干し、畑の野菜収穫、種まきなどを共に行い季節や時間を共有し信頼関係を築いている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会に見えた折には状況を説明し意見を賜っている。定期的にご面会にみえられる御家族はドライブへの同行を誘いかけたり行事にも協力を得ている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ふるさとドライブやご家族によるお盆、お正月の外出など、家族、自宅、地域とのふれあいを柔軟にお勧めしている	外出時に自宅周辺や思いのある場所を含めて出掛けており、家族の協力を得て法事や選挙へ出掛ける利用者もいる。季節の便りを利用者と共に作成し家族へ送ったり、教区神父の訪問があるなど利用者の馴染みの人や場との関係継続に努めている。家族や知人の訪問や利用者の外泊も支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	個人個人の性格を把握しトラブルや孤立がないよう和やかな雰囲気づくりに努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	長期入院等でやむを得ず退居された方など所用の際などにご面会に伺ったりしている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人同席でカンファを行い、出来るだけ本人の意向を汲み取っている。また、意思疎通が困難な方は、ご家族に伺うようにしている	利用者によってはカンファレンスに参加してもらい、本人の希望を聴取している。また日常的に一人ひとりとのお話の時間をもち、思いを汲み上げるよう努めている。困難な場合は家族の情報や生活歴から本人本位に検討している。得た情報はユニット会議や申し送りノートで共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメント表は入居前、入居時に伺っている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	記録はケアノートによる電子記録で気付きを入力している。また、朝のミーティング、ユニット会議で検討している		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、家族、職員間で話し合ったうえでケアプランを作成している。また、担当者が随時モニタリングをすることでケアプランの内容も濃くなる	面会時に家族の意見や要望を聞き、ケア会議や日頃より利用者の要望を聞き計画に反映し、同意後実施している。担当職員が毎月モニタリングを行い、3ヶ月毎にケアマネージャーが評価している。職員はケア統一を図り、支援状況と利用者の状況をわかりやすくケース記録に記入し、介護計画に沿って実践している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアノートによる電子記録、申し送りノートを使用し情報を共有している		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人、家族の希望により外泊、外出の対応している。また、希望者は美容室へもお連れしている		

グループホームかぶとむし（てんとうむしユニット）

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地区行事、近隣の学校行事等に参加している。また、移動図書館の活用、カトリックの皆様へ神父様の来設も依頼している		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力病院ほか、全ご利用者は毎月受診を予定している（ほぼ施設が対応）	契約時に、協力医療機関と通院介助について説明している。通院介助は管理者が行っているが、本人・家族が希望する医療機関によっては、家族が通院介助を行っている。眼科歯科等も家族が同行している。受診結果は家族へ報告しており、職員は日誌や申し送りノートで共有している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職の少しの気付きや変化を看護職へ伝え指示を受けている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	常に入院先に出向き病院関係者と情報交換し関係を築いている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご家族と早い段階で話し合い、次に起こりうる可能性を話合って不測の事態に備えている。またその件を職員へ伝え情報を共有している	管理者は利用契約時に家族へ事業所では看取りを行わない旨を伝えている。利用者の状況に応じて、医師と家族、職員とで話し合う場を随時設けている。本人や家族が安心できるよう、事業所が対応できる支援方法を十分に提案している。ただし、口頭のみで伝えており、文書が整っていない。	利用者の最期のあり方については家族が十分に理解することが必要であり、口頭での説明だけでなく、全家族にとってわかりやすい終末期・看取りに関する文書の作成が望まれる。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	年に1回救急救命講習を消防署指導の下学んでいる		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に防火訓練を行い地域の方も参加して貰い実践に備えている	年2回消防署立会いの下、防火訓練を実施している。夜間想定訓練には利用者も参加し、初期消火・通報・避難誘導等行っており、緊急連絡網に沿って全職員へ一斉メール送信による訓練も行っている。ただし、地域住民へ訓練参加を呼びかけているが、これまでに参加はない。災害時の備蓄品についても検討中である。	災害時には地域住民の協力が必要であるため、引き続き地域住民への訓練参加を呼びかけ、協力体制を築く事が望まれる。また、母体法人と連携し災害時の備蓄品について検討を期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉の虐待や接遇に問題がないか職員間で注意チェックしている	利用者の自尊心を傷つけないよう職員は言葉遣いや接遇に気を付けており、職員会議等で注意合っている。利用者の個人情報やデータ管理しており、データのセキュリティ対策は母体法人が取り組んでいる。ただし、トイレのドアが開いたままの箇所があったり、使用しないポータブルトイレが居室に置いてある。	利用者の尊厳、羞恥心に配慮し、トイレのドアの開閉や居室のポータブルトイレの位置、保管方法等の検討が望まれる。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	常に「～しますか？」と声掛けをしてお気持ちに寄り添うようにしている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	常に「～しますか？」と声掛けをしてお気持ちに寄り添うようにしている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	男性は髭剃り、女性は顔拭き、髪をとく。外出、行事に合わせて服を選ぶが、大半は職員で行っている		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	誕生会に好みの物を提供したり、食材の下準備や配膳等は手伝って貰っている	法人栄養士が作成した献立に基づいて、職員が調理している。アレルギーや嗜好など調査を行い把握して対応している。利用者も調理準備を手伝ったり、ホーム畑で収穫した野菜を調理する等、調理を楽しめるよう支援している。正月など季節のメニューや誕生日の特別メニュー、弁当持参の外出など様々な支援を行っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士の作成したメニューに添って食事提供している。水分に関してはポカリ、コーヒーなど多く摂取していただくよう努めている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後実施している。出来る方は出来る行動を見守りし、出来ない方は職員が行っている。夜間は洗剤につけ消毒している		

グループホームかぶとむし（てんとうむしユニット）

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を用いお一人お一人のリズムみて対応している	ホームではトイレ座位での排泄を支援している。排泄チェック表を利用者毎に作成し、職員は利用者の排泄状況を把握している。排泄が自立している利用者には見守りに対応し、時間や仕草、その日の体調を踏まえながら、トイレに誘導している。これまでにオムツから布パンツやパッドへの軽減事例がある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分補給、機能訓練に参加していただき毎日の運動を心掛けている。また、水分補給、下剤でコントロールしている		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週3回の入浴支援、残存機能に応じた浴槽を提供する	各ユニット交互に入浴日を設定しており、週3回以上の入浴を支援している。家庭用浴槽と機械浴があり、利用者の身体状況に合わせた入浴支援を行っている。一対一で支援するため、会話も弾みゆっくり入浴を楽しんでいる。現在は入浴拒否の利用者はいない。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	週1回のシーツ交換、寝具干しを実施している		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	その人その人の処方内容を理解し与薬している。与薬介助者はチェック表に記名している		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯物たたみ、畑の管理などの役割を持たれ、午後は午後で毎日、パズル、レクを楽しまれている		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	介護度の低い方は頻繁に外出に出掛ける。介護度の高い方も大きな行事ごとの外出は極力参加してもらう	天候や体調に合わせてながら、外出支援を行っている。ホーム畑やウッドデッキは利用者が自由に入入りしている。ホームでは時間をできる限り外出支援に使っている。買い物やドライブの他、職員の外出時に一緒に出かけている。また月一度は全員での外出を企画している。家族へも声をかけ外出を楽しんでいる。	

グループホームかぶとむし（てんとうむしユニット）

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お小遣いは事務所預かりで保管。お申し出次第で自由に使うことができる		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	贈り物が届くとお礼の電話を入れる。携帯所持者はご自由に、手紙もやり取りができる		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	施設内の清掃を毎日心掛けています。合わせて季節の花々を持ち寄ったり、庭先、裏庭も美化に努めている	ホームは天井が高く光が差し明るい開放感のある造りである。飾りやイベント時の写真、花など季節を感じる工夫が随所にある。移動図書館で本を借りたり、新聞を自由に読めるコーナーがあり利用者は思い思いに寛いでいる。職員が毎日清掃し、常に心地よい空間を保っている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	築4年目で広い造りとなっておりそのような空間は十分に使用、共有できる		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご自宅より馴染みの物を持ち込まれること可	居室への持込みは自由である。使い慣れた筆筒やテレビ、家族の写真などそれぞれ利用者の生活環境に合わせている。ベッドの向きや配置も本人の希望を優先している。居室担当職員が、整理整頓の支援を行っている。掃除、換気は職員が行い、快適な居室となるよう努めている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建設段階で手摺取り付けや安全空間設定など支障ない。また、歩行動線には危険なものを置かないよう配慮している		

自己評価および外部評価結果（みつばちユニット）

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎朝、申し送り時に全員で理念を唱和し、共有して実践につなげている		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	回覧板で地域の掃除、空ビン・古紙回収などに参加したり、近くの小学校の行事に参加したり、訪問を受けたり交流を行なっている		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地元の高校生のHH実習生を受け入れているが、地域の人々に向けての地域貢献は出来ていない		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回会議を開き、現状や事故等の報告を行なっているが、委員の方からあまり意見は出ていない		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	2ヶ月に1回会議を開き、現状や事故等の報告を行なっているが、委員の方からあまり意見は出ていない		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束に関しては各職員が或る程度理解はしているが、時々利用者がふと出て行かれる事があるので、帰宅願望で不穏があり動きが見られる時は、玄関の自動ドアを手動に切り替えている(夜間は施錠)		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	勉強会で全員意識している。言葉づかいに関しては、時々会議で上がっており、気づいたときはお互い注意している		

グループホームかぶとむし（みつばちユニット）

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	勉強会で一応理解しているが、個々の必要性については具体的に話し合ったことはない		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入退居時、管理者等からご利用者のご家族へ十分に説明し、理解、納得して頂いていると思う		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱を設置しており実際に投書として入っていたことはないが、ご家族の方が面会に来られた際にいくつかご指摘があり、その件に関しては他の職員へ周知し、解決に向け努力している		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月1回のユニット会議、リーダー会議と年2回の職員会議を設け、職員の意見、提案を出し改善している		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	希望休など優遇してもらっており、臨時の勤務交替もしてもらい、楽しく仕事している		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	地域での研修には知らせがあれば各々参加しているが、前年度他市での研修は少なかったため今年度は法人が許せば、たくさんの研修に参加させてほしい		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同一法人内での行き来もあり、お互いの行事(夏祭りなど)に応援にも行っている。今後ケアマネの勉強会を行なう予定		

グループホームかぶとむし（みつばちユニット）

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	直接声をかけ困っている事などを聞き出し、対応している		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	施設見学や入居時、積極的に声をかけるようにし、話しやすい雰囲気を作り、要望等聞くようにしている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	当施設での対応の限界を伝え、対応できなくなった場合には特養に移って頂くこともあると説明している		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	業務だけにかかわらず、世間話等をして楽しい雰囲気づくりをし、畑仕事、洗濯物畳みも一緒に行なっている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時にご利用者の状況をご家族にお話しし、またご家族の要望を聞くようにしている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	地元のお花見ドライブのは出かけている。個人的にはご家族の希望があれば外出、外泊の支援をしている		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずにご利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	新規入居者の席をお話し相手になるような方の横にし、孤立しないようにした。お話しが合わない人同士はトラブルが起きないように席を離している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	長期入院の為退去されたご利用者にも様子伺いに行ったり、ご家族には退所された際には相談に乗る旨説明している		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	意思表示のできる方には直接尋ねているが、意思表示が困難な方へは職員がご利用者本位に考えたり、ご家族に尋ねている		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	直接尋ねたり、アセスメントで把握するようにしている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ケアノートで情報を得たり、担当者が半年に一度アセスメントを見直し情報を整理することで他の職員も情報を共有している		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	各職員がモニタリングをきちんと行うようになり、次の介護計画につながるようになった。また介護計画について職員間で意見を出し合っている		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日ケアノートに入力し、申し送りノートも活用し、情報を共有している。介護計画の際にも見直しにも記録を確認している		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	トイレでの怪我の防止に手すりにカバーをつけたり、ご利用者のドライブに奥様に同行していただいた		

グループホームかぶとむし（みつばちユニット）

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	神父様の定期的な訪問を受けたり、図書館の巡回サービスを受けている		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医に定期受診行なっているが、個人病院で入院設備がないため、急変時には他の医療機関を紹介してもらっている。中には入居前のかかりつけ医を変更されない方もいる		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	変化や気づいたことは看護職へ報告、相談し指示をもらっている。必要であれば看護職同行で受診している		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院者がいる場合、様子伺いに行き情報を得ていた。退院が決まれば日時の調整を行なった		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	早い段階からではないが、以前重度化したご利用者に対してはご家族や職員と話し合いを行ない、緊急時マニュアルを作り、ぎりぎりまで施設で介護を行なった		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救急救命法の講習を年1回定期的に受けている。吸痰の講習もほとんどの職員が受けているが未受講あり。実践力を身に付けるためにも今後も定期的に講習を受ける必要がある		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に消防署との避難訓練や施設内の机上学習、消防設備の確認等行なっているが、地域との協力体制を築くまでは至っていない		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	なれなれしい言葉かけや言葉の虐待がないか職員間で注意し、会議の際にも注意を受けている		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	声かけし了承してから行なっている。意思表示ができないご利用者は表情、しぐさで思いをくみ取り判断したり、職員同士で相談している		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	できるだけ希望を聞くようにしている。午睡など希望に沿っている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	何名かはどれを着るか尋ねているが、殆どの方は職員が選び、外出、行事等には身だしなみを整えている		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	誕生会には好みを聞き、なるべく期待に添うようにしている。調理はほとんど職員が行ない、出来る方にはネギを刻んだり、箸を配ったりなどのお手伝いをしている		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	系列の特養の管理栄養士の立てたメニューに添って調理し提供している。食事形態や、量も一人ひとりの状態に応じて支援している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後EM菌を使ったうがい水を用意し、自力でできる方には声かけし、出来ない方にはそれぞれ状況に応じた介助をしている		

グループホームかぶとむし（みつばちユニット）

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンを知り、定期的にトイレ誘導している。パットも大小使い分けている		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分を多く摂ってもらい、ヨーグルトや健康茶等提供しているが、便秘が改善されない方もいる。緩下剤、坐薬でコントロールしている		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	曜日や時間帯は職員で決めているが、便失禁した場合は優先して入浴している		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ご利用者によっては午睡される方もいる。定期的なシーツ交換、天気の良い日には布団干し、寝具の入れ替え等支援している		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬のファイルや看護師に確認することで理解できている。気づき等あれば看護師に報告している		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	おしぼり巻きや洗濯物干し、たたみ等手伝って頂き、役に立っていると満足していただけるようにしている。畑仕事を職員と一緒にさせていただいている		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ご家族の希望で外出される事はある。季節の花見ドライブや買い物に出かけたりしている		

グループホームかぶとむし（みつばちユニット）

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご本人がお金を所持することはない。必要なものは預り金から購入できるようにしている		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話を取り次いだり、贈り物が届いた時に御礼の電話をする支援はしている。手紙はくれば読み聞かせているが、返事を書くことはない		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の花を飾ったり、壁にご利用者の写真を掲示するなどしている		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	好きな時に居室で一人で過ごしたり、フロアや多目的ホールでは気の合った利用者同士お話しできるよう椅子の配置を考慮している		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	各自使い慣れたタンスなど持ってきていただいたり、ご家族の写真を飾るなどしている		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	車椅子自操出来る方には、障害物に配慮し自操して頂いている。トイレや風呂場では手すりを使用し立位して頂いている		